

はあにふる・ふくしま

*特集

福祉QC活動でサービスの質の向上をかなえる

*みんなで育てる地域福祉

認知症サポーター養成講座から支え合う地域づくりへ
～高齢化率40%、西会津町の取り組み～

*情報掲示板

福祉振興課からのお知らせ
民間助成金のご案内

*こんにちは! 活動紹介

鏡石町で開店した『ぼうさいカフェ鏡石店』をご紹介します。

2008

Vol.146

5

発行企画編集／

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

TEL.024-523-1251(代) FAX.024-523-4477

URL <http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>

E-mail heartful@fukushimakenshakyo.or.jp



参加者同士、楽しみながら考える災害対策

「もし、あなたの住んでいるまちが災害に見舞われたら…。日ごろから防災に関心を持ってもらおうと、鏡石町社協が主催となって『ぼうさいカフェ鏡石店』を開店しました。参加した住民の皆さんは、お茶を飲みながら、災害時に起こりえることを想定したカードゲーム「クロスロード」を使い、互いの意見に耳を傾けました。

ゲーム形式で楽しみながら防災について考える。皆さんのまちでも『ぼうさいカフェ』を開店してみたいかがでしよう。※詳しい内容は、「こんにちは! 活動紹介 鏡石町で開店した『ぼうさいカフェ鏡石店』をご紹介します。」(11P)をご覧ください。

こんにちは!

活動紹介

鏡石町

鏡石町で開店した
『ぼうさいカフェ鏡石店』
をご紹介します。

“災害は忘れた頃にやってくる”。

今まで大きな災害がなかった地域であればあるほど、防災に対する意識は薄れているもの。いつ起きてもおかしくない災害に備えて、日ごろどんな意識を持つことが大切なのか? 県内で初めて開店した『ぼうさいカフェ鏡石店』。参加した鏡石町の皆さんは、互いに意見を交換し合い、防災意識を高めました。



楽しく学ぼう! みんなで
考えるいろんな防災。



「これをきっかけに防災について関心を持つ人が増えてほしい」と、鏡石町社協の三浦さん。

『ぼうさいカフェ』とは、平成19年度から内閣府がはじめた「出前防災講座」のことで、参加者同士お茶を飲みながら防災について楽しく気軽に学ぶことを目的としています。防災について「楽しく気軽に学ぶこと」に着目した、鏡石町社協ボランティアコーディネーター・三浦光幸さん。今回は鏡石町社協が主催となつて『ぼうさいカフェ鏡石店』を開店しました。

「鏡石町はこれまで大きな災害に見舞われたことがありません。そのため災害について関心を持つている人が少ないように思います。そこで防災の備えの第一歩として、『ぼうさいカフェ鏡石店』を開店することにした」と三浦さんは話します。

会場となった鏡石町公民館には、約40名の住民が参加しました。5名1組のグループに分かれ、災害時の対応や備えについての設問にイエス・ノーで答えるカードゲーム「クロスロード」を使いながら、お互い災害時の対応について話し合いました。

ゲーム感覚で楽しみながら
防災意識を高めよう。



「防災についてさまざまな意見を知っておくことも大切」と、吉川さん。

クロスロードの考案者で今回のファシリテーター(進行役)、慶應大学の吉川肇子准教授は、「このクロスロードは、参加者同士でなぜそのような対応を考えたかなど、意見交換をしてもらうことを目的としていますので、正解を設けていません」と、このクロスロードの役割を説明してくれました。参加者たちは自由に考えを出し合い、互いの意見に耳を傾けてい

ました。

ぼうさいカフェ閉店後、参加者からは「普段、防災について意識していませんでしたが、このようなゲーム形式だと楽しみながら考えられると思います。家族や近所隣でやってもいいですね」といった声も聞かれました。

このクロスロードを使いながら、楽しく防災意識を高めた皆さん。日頃の備えに役立つ情報交換が楽しくできたことでしよう。



近年の災害をもとに、起こりうるさまざまな状況を想定した「クロスロード」。

※「クロスロード」は、現在、京都大学生協インターネットショップにて販売中(<http://www.s-coop.net/rune/bousai/>)